

☒ 話すこと ☐ 書くこと

☒ 個に応じた教材の作成や指導の充実
☐ パフォーマンステストでの活用

☒ 授業での活用
☐ 課外活動での活用

☒ 家庭学習での活用

実践のポイント

生徒の発話量の増加と言語活動の質の向上を軸としたAIアプリを活用した英語授業モデルの構築

実証概要

<校数> 20校(中学校:17校、義務教育学校:3校) <人数> 1,783名(中学校:1613名、義務教育学校:170名)
<学年> 中学校:第2学年、義務教育学校:第8学年 <アプリ等> Terra Talk(ジョイズ株式会社)

<AI機能について> PC・タブレット・スマートフォンで利用できるAI英語学習アプリ。チャット形式で英会話・発音・音読練習ができ、AIが個別にフィードバックを行う。教科書準拠の問題やスモールステップのエクササイズ、アクセントや速度調整、トロフィーやバッジなどのゲーミフィケーション要素、CEFR-J準拠の判定機能を備えている。

AIの効果的な活用方法や取り組み (AI英語モデル校事業)

●言語活動の質を高めるための「壁打ち相手」としての活用



ALTとのやり取りに向け、AIアプリを活用して語彙や表現の反復練習を行った。教師は、個別の見取りを基に支援するとともに、生徒に共通するつまづきを拾って全体で考えを深めたり、生徒が活用できる表現を共有したりする場を設定した。このような中間指導が、生徒の自信を高め、ALTとのやり取りでの発話の質・量の向上につながった。

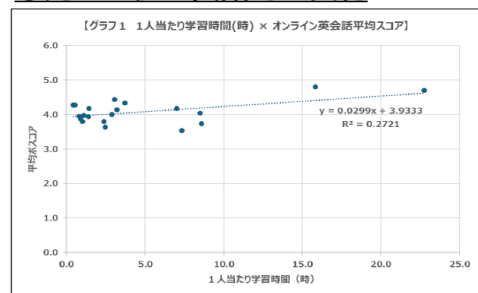
●個別最適な学びを支えるAI活用の自己選択



単元のゴールに合わせて、生徒自身が自分の目標や課題に応じたメニューをAIアプリから選択し活用できるようにした。個別に学習する生徒、友達と協働的に取り組む生徒、教師と一緒に学びを進める生徒のように、生徒が自分のペースで学びを調整する自律的な学習への転換が図られた。

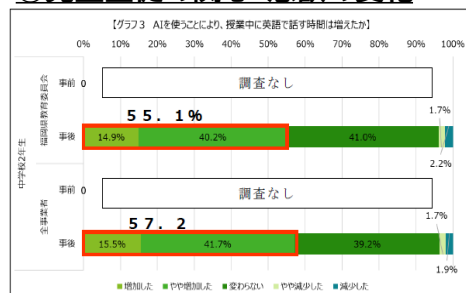
実践成果の検証結果 (AI英語モデル校事業)

①児童生徒の英語力の変化



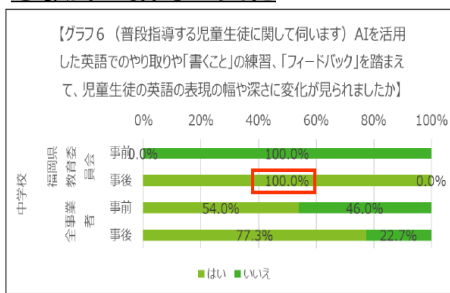
AIアプリの1人当たり学習時間が多い学校ほど、オンライン英会話パフォーマンステスト第1回～第3回の合計平均スコアが高い傾向にある。

②児童生徒の関心・意欲の変化



AIアプリからのフィードバック結果を活用しながら粘り強く何度も表現を工夫し直す姿があり、家庭学習量も増加した。このことは、間違いを恐れず表現しようとする生徒の姿につながった。

③教師の指導の変化



生徒主体の授業設計を行い、言語活動中心の授業へと変容した。授業者アンケートから、生徒が表現する英語の質が変容したことを実感していることがうかがえる。

AI英語活用リーダーの育成や普及に関する取り組み (AI英語活用リーダー事業)

AIアプリの効果的な活用例の普及・啓発のために、好事例を県指導主事等研修会において共有した。また、AI英語活用リーダーが効果的な実践を共有・交流することができるよう、オンライン掲示板アプリを活用して、プラットフォームを作成した。これらの取り組みによって、AI英語活用リーダーが自主的に好実践の学校に赴いて授業を参観するなど、英語教師が互いに学び合うことにつながるとともに、近隣の市町村でのAIアプリを活用した授業改善につながった。

事業全体を通じた成果や課題、今後の取り組み (AI英語モデル校事業・AI英語活用リーダー事業)

【成果】AIとの英会話練習により、英語で話す量が増加し、発話の流暢さが向上した。

【課題】文法事項の定着度の低さがコミュニケーションの質や量に影響していること。

【今後の取組】・話す量の増加とともに正確さに対する指導もAIアプリも活用しながら、バランスよく行っていく。

・オンライン英会話システムを活用したパフォーマンステストから見えた課題を明らかにし、その課題から見えた授業改善のヒントについての資料をまとめ、市町村教育委員会に発出及びホームページにアップロードし、生徒の英語力向上を図る。